

「一年間の自然・生活体験 山村留学」

～自然に学ぶ 暮らしに学ぶ～

山村留学は、1976年（昭和51年）に育てる会が日本で初めて制度化した教育活動で、親元を離れて自然豊かな農山村に一年単位で移り住み、地域の公立学校に通学しながら、日々の暮らしを通してさまざまな体験を積み重ねていくものです。

こうした体験の積み重ねは、一人ひとりの心とからだに種として残り、それぞれのきっかけで芽を出します。この芽を自らの力で育てていくことが、その子の人生を豊かなものにしてくれると考えています。

四季折々の自然の変化や体験活動、仲間との暮らしを通して、豊かな成長を促す……そんな魅力たっぷりの山村留学をご紹介します。

● はじめから一年間だった？

当初は、夏冬春休みや週末を利用した自然体験キャンプを実施していました。すると参加した子どもたちや保護者から、「もっと長い期間滞在したい」「四季の変化を感じてみたい」「山村の学校に通ってみたい」など、たくさんの意見が寄せられるように。そこで学校、地域、教育委員会との話し合いを重ねて完成したのが山村留学です。

昭和43年～

夏冬春休みを利用した自然体験キャンプ

- ・ 地域農家へのホームステイ
- ・ 比較的長期間（1週間～10日間）のプログラム

参加者のニーズ

- ・ 四季の変化や継続性のある体験
- ・ 生活に根ざした活動など

地域の協力

- ・ 自治体や学校の理解と協力
- ・ 地域住民の支援体制など

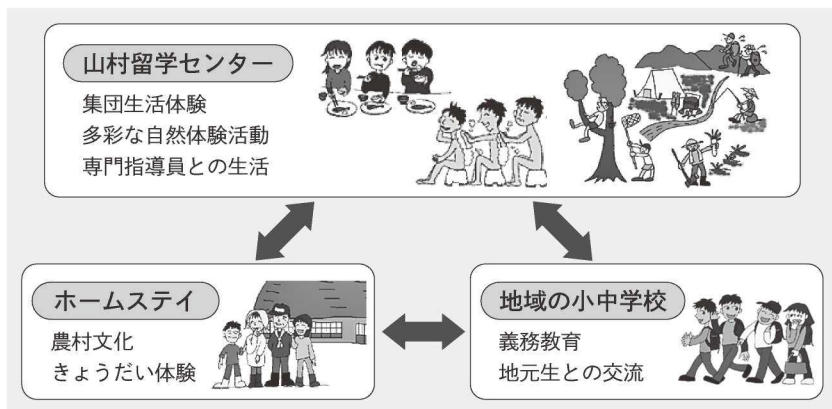
昭和51年～

日本初の山村留学の実施

- ・ 親元を離れ、一年間単位で集団生活や野外活動を体験
- ・ 山村留学センター、ホームステイ、学校が一体となった学園方式

● 最初から変わらない、育てる会だけの「学園方式」

育てる会の山村留学は学園方式と呼ばれるもの。月の半分を山村留学センターで過ごし、残り半分をホームステイ先で過ごししながら、地域の小中学校に通学します。これは最初から変わらない大きな特徴で、子どもたちの体験の質と場を広げるために必要と考えています。



※くらぶち英語村は、教育的特徴から全寮制となっています

● 多彩な活動の場「山村留学センター」

自然環境に配慮した高台や集落の中心に建てられており、周辺には様々な体験施設や田んぼなどの圃場^{ほじょう}を備えています。

キャンプや登山・農業体験・スキーなど、地域の特徴を生かした四季折々の多彩な体験活動だけでなく、仲間と過ごす集団生活の中で、他者とのかかわりを学ぶ魅力ある生活空間です。

一年を通して
多彩な体験活動が満載



仲間と作り上げる
楽しい生活



● 心温まるふるさと「ホームステイ」

受入家庭のみなさんは「あずかるからには自分の子どもと同じように」という、強い気持ちで迎えてくれます。

地域で生活をしてきた受入家庭との心温まる交流は、この土地ならではの“本物”の生活文化を体験する場となっています。

その家の子どもに
なって暮らす楽しさ



● まるで学校全体が一つのクラス「小規模校ならではの教育」

通学する学校は1学年1クラス程度の小規模校。毎年やってくる山村留学生が、地域の子どもたちと机を並べることは、学校にとってはいつもの風景です。

きめ細やかな学習指導と地域の特色を生かした授業内容は子どもたちにも大人気。学年を越えた交流はまるで大家族のようです。

学年を越えて
みんな仲良し



● たくさん歩いてたくさん遊ぶ

センター活動中は、数キロの道のりを毎日歩いて通学しています。歩くことは足腰が強くなって体力がつくだけでなく、身近な自然への気づきを促し、豊かな心の醸成にも繋がります。

また、登下校は四季の自然を身近に感じながら、自分たちだけの「道草」をして過ごす、特別な時間でもあります。

自分の興味
関心で道草を
楽しむ



● その土地と季節ならではの体験活動を

センター活動中の休日は、田畑での農作業、自然体験・食文化体験、伝統行事など、地域の人々とのふれあいを重視しながら、それぞれの地域の特徴をいかした四季折々の活動を行っています。

農作業は自給自足をめざすものではなく、体験活動の一環として、昔ながらの手作業

で先人の苦労や知恵を体感しています。この体験をさらに、収穫の祈りや感謝、喜びをあらわす太鼓や民舞などの伝承文化活動にもつなげ、収穫祭や地域の文化祭などで披露しています。

また、夏にはキャンプやアルプス登山、湖水浴にヨット・カヌー、冬には炭焼きづくりやアルペンスキーなど、季節と地域に合わせた野外活動にも力を入れています。

※収穫祭…保護者や地域の方々などに子どもたちの体験を発表する行事です



収穫祭は
自分を表現する
大切な場

● 山村留学の四季の一例

4月	入園のつどい 田畑起こし	10月	脱穀 地区文化祭
5月	代かき・田植え 山菜採り・味噌作り	11月	収穫祭 木の実・きのこ採り
6月	畑作業・キャンプ 船舶活動	12月	炭焼き原木切り出し 座禅体験
7月	湖水浴 実家帰省	1月	スキー 炭焼き
8月	夏休み 帰園・古道ハイク	2月	雪中キャンプ 親子スキー
9月	アルプス登山 稲刈り・運動会	3月	スキー 修園のつどい

● 八坂美麻学園「学園生の心がまえ」

山村留学は一人ひとりに寄り添った自由な教育が特徴ですが、みんなで気持ちよく生活し、充実した山村留学生活を送るために、一人ひとりが大切にしている心がまえ。

各留学センターで若干の違いはありますが、この考えを基本として取り組んでいます。

1. 山村留学中は、いつも自分の足で歩くよう努力し、自然の中でたくさん活動し、「ここでしかできないこと」をたくさんします
2. あいさつや、礼儀作法、言葉づかいに気をつけ、「自分のことは自分でやる」けじめのある生活をします
3. 山村留学生活に必要なもの以外、必要以上に多く物を持たず、物を大切にし、無駄なお金を使わない「がまん」する生活をします
4. 食事は好き嫌いなく、残さず味わって食べ、感謝の気持ちを忘れないようにします
5. 自分のことだけでなく、相手の気持ちを考えながら過ごすように努力します。特に、周りで困っていたり、悩んでいる人のことをみんなで考え、お互いを認め合いながら助け合って生活します
6. 自分の目標をもって生活し、収穫祭や修園のときには、成長や成果を、自分の言葉と大きな声で堂々と発表します



● 育てる会がかかわる山村留学のご紹介

長野県大町市

八坂美麻学園（育てる会直営）



日本初の山村留学。「自然に学ぶ 暮らしに学ぶ」をテーマに、一年を通して山村留学センターでの集団生活と一般家庭へのホームステイを交互に繰り返しながら、地域の「本物」に触れ、さまざまな生活・自然体験を積み重ねていきます。



長野県売木村

売木学園（指導者派遣）



売木村の豊かな自然の中での生活や、体験活動、集団生活を通して豊かな人間性を育むことを目的としています。一年が終わるころにはたくましい「うるぎっ子」に、そしてご家族の皆様にとって売木村はかけがえのない故郷になることでしょう。



長野県長野市

大岡ひじり学園（指導者派遣）



大岡ひじり学園では、子どもたちがこの大岡地区の自然や人々の暮らしとふれあうことによって得た体験をもとに、「自分の持って生まれた個性にめざめ、自信を持ち、それを嬉々として自らの力で育てていく」そんな子ども達の姿を理想に描いています。



島根県大田市

三瓶こだま学園（指導者派遣）



自然文化体験と集団生活体験を通して、子どもたちが自ら生き抜く力と豊かな心を育む場を提供します。漁業体験や酪農体験、海水浴や海でのキャンプ、神楽の体験など、山も海もある大田市ならではの自然と文化を活用した活動が盛りだくさんです。



群馬県高崎市

くらぶち英語村（指導者派遣）



くらぶち英語村は国内唯一の英語による山村留学施設です。外国人スタッフの生きた英語に囲まれながら自然・異文化体験活動を行います。「自立心」、「思いやりの心」、「生きる力」を育むとともに、日々の暮らしの中で実践的な英語力を高めます。



富山県南砺市

南砺利賀みらい留学（指導者派遣）



南砺利賀みらい留学では、山村留学センターで展開する自然体験活動や集団生活体験に加えて、地域と密接に関わりながら生活をします。練習から参加する春祭りの獅子舞や、民謡体験等、利賀村の文化を深く味わえます。冬は2mを超える豪雪を体験できます。



● Q&A

Q1 山村留学をさせるのに一番よい学年はありますか？

A1 一概に「何年生がよい」とは言えません。山村留学の持つ色々な効果を踏まえて年齢を考える必要があります。

例えば、自然を思いっきり体験したいのであれば、小学校3年生～5年生ぐらいがよいでしょう。この年代はある程度自分のこともでき、のびのびと自然や遊びに夢中になれるからです。

一方、集団生活による人間関係やより高度な活動にチャレンジする中で達成感などを体験させたいなら、小学校6年生～中学生が最適です。さまざまな人との出会いや経験が、この時期の複雑な心理にプラスとして働き、一回りも二回りも大きくしてくれるからです。

それぞれの年齢、学年によって多種多様な体験を獲得することができるのが山村留学なのです。

Q2 留学センターの指導者やホームステイ先の方はどんな人ですか？

A2 留学センターには、指導を担当する指導員、用務や食事作りなどを担当するスタッフが常駐しています。

指導員は山村留学の趣旨を十分に理解し、子どもたちの指導にあたっています。

ホームステイ先は、地元に根を下ろして生活を営み、山村留学の趣旨を理解している地域住民です。

ホームステイの会合が概ね月1回開催され、子どものことや山村留学のことについて指導員を含めてみんなで話し合いながら、共通理解を深めています。

Q3 親子で自由に連絡をとることはできますか？ また、1年間子どもとは会えないのですか？

A3 子どもの自立を促し、集団生活を円滑に送るため、電話やメール等で自由に連絡をとることは控えていただいています。基本的に親子での連絡は、ハガキによって行っています。緊急の場合はセンターにご連絡ください。

また、病気やケガ、問題が発生した場合には、指導員より迅速に連絡をしています。

山村留学生は、春夏秋冬休みは実家に帰省しますし、学園行事の中にも親子行事などがあるため、保護者が学園を訪問する機会があります。

また学校行事に関しても、授業参観、運動会などに参加していただけます。むしろ、預けっぱなしというのではなく、積極的に学園行事などに参加し、子どもの成長をサポートすることが大切と考えています。

Q4

食事は誰が作るのですか？
また、食事の内容はどのようなになっているのですか？

A4

山村留学生在日々の生活や活動に健康で積極的に取り組むためには、毎日の食事がとても大切になります。そのため、センター活動中は、専門スタッフと地域の方が協力して毎食調理し、栄養バランスも考慮しながら献立を決定しています。

もちろん、収穫物を調理するなど体験活動の一環として、子どもが調理を行うこともあります。原則はしっかりとした食事を提供するために、大人が担保する部分と考えています。

また、山村留学では、食事についても食文化を体験する重要な要因として位置づけていますので、地域の食材を活用し、食文化の再現、季節行事食なども積極的に取り入れています。

Q5

食物アレルギーがあるのですが、山村留学は可能ですか？

A5

アレルギーの種類や重篤度によっては、ホームステイなど一般家庭にお世話になるため対応が難しい場合もありますが、子どもが自分で食材を選別できたり、軽度の場合には問題ないでしょう。

親と離れ、生活の一切を指導員やホームステイ先が見ることになるので、アレルギーなどの危険を伴うことに関しては、事前にしっかりとご相談ください。

Q6

留学センターやホームステイでは何人部屋で生活をするのですか？

A6

留学センターでは集団生活を体験することも大きな目的となりますので、八坂美麻学園の場合、6人～10人の大部屋での生活になり、大家族的な雰囲気になります。

一方ホームステイの場合は、そのうちの子になるという意味合いもありますし、疑似きょうだい体験の場という目的もあるので、3、4人の小部屋でアットホームな雰囲気になることが多いようです。

なお、各山村留学地によって、受入れ人数も変わってくるため、人数は目安とお考えください。

Q7 中学3年生まで留学をし、高校受験をすることは可能ですか？

A7 全く問題ありません。中学3年生までを山村留学で過ごし、その後公立私立を問わず、高校進学をしている子はたくさんいます。中には有名私立や難関校に合格した子もいます。むしろ、山村留学の体験を高く評価してくれる高校もあります。

もちろん、塾に通うことはできないなどのリスクはありますので、都会で受験するのでは少し条件が違ってきますが、やはり本人の気持ち次第でしょう。ただ一つ言えるのは、仲間で集団生活を送っている山村留学生は、限られた時間の有効活用が上手になり、集中力は増すように思います。
※中学3年生については、前年度からの継続生のみお受けしています

Q8 現地の学校から都会の学校に戻った時、うまくやっていますか？

A8 留学する前の学校生活に問題もなく、友だち関係も良好な場合は、何の心配もすることはないでしょう。

元の学校でトラブルがあって留学した場合や、小学生で留学して中学校から親元に戻る場合などは、小規模な学校から都会の学校に戻るわけですから、雰囲気の違いや友人関係でしばらくは悩むこともあるようです。

その場合、山村留学で培った力を信じて時間をかけて見守ることが大切です。

Q9 山村留学は学校になじめない子や課題のある子が多いと聞きましたが本当ですか？

A9 山村留学はとかく心身の治療目的の制度ととらわれがちですが、本来の趣旨は決してそうではありません。自然体験や集団生活を体験させるために、積極的に子どもを山村留学に出されている方もたくさんいます。

しかし、現代の青少年が抱える課題も多く、そういった問い合わせも決して少なくないのも事実です。

ただ、山村留学では一般家庭へのホームステイがあり、実際には課題のある子どもへの対応は難しい部分が多くあります。

留学を希望した場合には、本人や家族と面談を繰り返し、受入れ可能と判断できるならば受入れるとしているところがほとんどです。

Q10 キャンプなど色々な活動があると思いますが、危険な事もありますか？

A10 自然の中での体験活動は、時と場合によっては危険を伴うこともありますので、常に指導員や責任者が十分な安全確認を行って指導にあたっています。しかし、山村留学では失敗や軽度のケガは、それも重要な体験と考えています。それらのことから子どもたちは原因を考え工夫し、創造する力を身につけていくと考えているからです。

Q11 病気やケガの時はどのように対応するのですか？

A11 山村留学を実施している市町村には、診療所などの医療施設や近隣に総合病院がある場合がほとんどなので、指導員やホームステイ先が通院に付き添ったりして対応します。ただし、重度のケガや病気の場合は、保護者に付き添いをお願いしています。

なお、定期的に通院が必要な場合は、紹介状を持参していただいて現地の医療機関に繋ぐことも可能です。

また山村留学中は、NPO 法人全国山村留学協会の傷害保険に加入していますので、その補償を受けられるケースもあります。

Q12 成長期のからだの悩みなど、不安な事は相談できる態勢はありますか？

A12 留学センターには男性指導員と女性指導員が常駐しており、成長期のかやからだに関する相談などに、それぞれが同性として親身になって相談にのっています。

ホームステイ先は子育て経験のある方がほとんどですので、そういった対応も十分できますし、学校生活では、スクールカウンセラーを通して子どもたちの心身の様子を注意深く見守っています。

また、指導員、ホームステイ、学校は日常的に情報を共有しています。

山村留学の各学園では、来年度の留学生募集が進んでいます。ご検討の方は
お早めに各学園にお問合せください。